

令和5年度 帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業  
 (I 帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援事業)  
 事業内容報告書の概要

地方公共団体名【 境港市 】
令和5年度に実施した取組の内容及び成果と課題
<p>1. 事業の実施体制(運営協議会・連絡協議会の構成員等)</p> <pre> graph TD     A[鳥取県教育委員会] --- B[境港市教育委員会]     A --- C[連携・協力]     B --- C     C &lt;--&gt;  連携・協力・指導員派遣  D[在籍学校・日本語指導員]     D -- 日本語・学習支援 --&gt; E[外国人児童生徒]   </pre> <p>※日本語指導員は、教員免許の有無は問わない。      ※意思疎通が困難な場合は翻訳機器を活用する。</p>
<p>2. 具体の取組内容 ※取り組んだ実施事項(1)～(13)について、それぞれ記入すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象児童生徒          令和5年度: 中学1年生1名(A中学校)          ※外国人児童生徒の在籍する学校へ指導員を派遣。A中学校に週2日派遣。          ※学校、指導員、市教委の三者で連携・協議を行い、指導方針の確認、成果、課題の共有を行った。</li> <li>・A中学校          4月から月、金の2日間、2名の指導員を派遣した。          1日につき2時間から4時間の勤務であった。          国語、社会の取り出し授業1時間と次回の教材等の準備を行った。</li> <li>・向こう3カ年を見据えた域内における「指導員派遣」のイメージ          令和6年度: 2名          令和7年度: 2名          令和8年度: 2名</li> </ul>

4月： 児童生徒の課題の把握と日本語指導の実施について三者で協議

7月： 1学期指導内容の反省及び夏季休業、2学期の指導内容の打ち合わせ

12月： 2学期指導内容の反省及び3学期の指導内容の打ち合わせ

2月： 年間指導の評価及び次年度に向けての課題の共有と教育課程の作成

- ・「特別の教育課程」実施のためのカリキュラムマネジメントについて理解し、指導者及び支援者の役割を明確にした個別の指導計画を立案するよう努めた。
- ・個別の指導計画の実施・見直し等のPDCAサイクルにより、対象児童の日本語力や在籍学級への参加意欲が向上した。
- ・初期の日本語指導、学校生活の適応などを支援するための日本語指導員を派遣した。
- ・同時通訳機器、タブレット端末を活用した。
- ・2名の指導員派遣時間 1,520円/h×指導員A× 4h  
1,520円/h×指導員B× 60h

3. 成果と課題 ※取り組んだ実施事項(1)～(13)について、それぞれ記入すること

- ・日本語指導の指導力をもった人材の確保。
- ・次年度に向けて、指導計画の策定を行い、確実に来年度の職員に引き継がれるように努める。
- ・ティームティーチングでの指導を行う際、授業中にどこまで支援を行うことが必要となるかの判断が難しい。該当生徒の自尊心を損なうことのないよう、本人、保護者との十分な連携がさらに必要である。

	幼稚園等	小学校	中学校	義務教育学校	高等学校	中等教育学校	特別支援学校
本事業で対応した幼児・児童生徒数	( 園 )	( 校 )	1人 ( 1 校 )	( 人 校 )	( 人 校 )	( 人 校 )	( 人 校 )
うち、特別の教育課程で指導を受けた児童生徒数		( 人 校 )	1 人 ( 1 校 )	( 人 校 )	( 人 校 )	( 人 校 )	( 人 校 )

4. その他(今後の取組予定等)

- ・今後も校長会にて情報提供を行い、転入等で年度途中においても日本語指導を必要とする児童生徒の受け入れ体制を整えたい。